

国際ロータリー第2570地区

# 行田ロータリークラブ

RI会長：グレン E. エステス シニア / ガバナー：橋田 弥寿男

会長：黒淵陽夫 / 幹事：島崎政敏

例会日：木曜日

午後12時30分開会

会 場：アドバンテスト

行田クラブハウス

クラブ会報委員会

委員長：中島捷二 / 副委員長：境野登章

委員：岡田則之、島田修、反町清  
大谷浩一、山本栄治

第1892回 例 会 (9月16日)

2004～05 国際ロータリーのテーマ  
「ロータリーを祝おう」



CELEBRATE  
ROTARY

100 Years

## 来訪者のご紹介

### 白河ロータリークラブ

会 長	草野好夫 様
幹 事	新妻真孝 様
会報情報委員長	金子 博 様
職業奉仕委員長	田代行孝 様

## 会長挨拶 黒淵陽夫 会長



皆さん今日は。

9月10日の開会式の後、11日に始まった埼玉国体夏季大会が一昨日の14日に終了し、熊谷がメイン会場となる秋季大会が10月23日から28日まで予定されております。

今年は、オリンピックで活躍した選手もたくさん参加するようで、各競技ともそういった選手の活躍が間近で見られる、楽しみな大会となっております。

行田では、グリーンアリーナが成年女子の6人制バレーボールの会場となっており熱気溢れる試合が期待されております。会員の皆さんも応援を宜しくお願い致します。

さて今日は、姉妹クラブである白河ロータリークラブの皆さんをお迎えしての例会であります。

草野好夫 会長、新妻真孝 幹事、金子博 会報情報

委員長、そして本日の卓話をお願いしております、田代行孝 職業奉仕委員長の皆さんに御出で頂いております。遠い所を有難うございます。

国際ロータリー2530地区の白河ロータリークラブさんとは、1997年諸貫会長の時友好クラブとなり（その時私は幹事でした）、1999年5月20日に姉妹クラブとなりました。

その後会員の交流をはじめ、数々の事業を通して友情を深め合っております。最近では白河・行田の児童交流事業が毎年交互に主催して行われており、過去4回行われ地域の子供たちの育成に大きな成果を残しております。

又、会員の合同ゴルフコンペも交互に開催されており、優勝トロフィーもそれぞれ持ち回りの形で、争っております。私の義理の弟も白河に住んでおり白河さんは何か他人でないような感じがしてなりません。

今後とも両クラブがお互いの地域社会の奉仕活動、運動に大きな成果が出せるよう頑張っていきたいと思っております。

さて久しぶりの「漢文を学ぶ」であります。

「君子は豹変す」（君子豹変）という言葉です。中国の古典の一つ「易経」の一説だそうです。

今は、多くの方がこの意味を、「変わり身が早い」事をさすと思っているそうですが（私もそう思っております）、本来の意味は「徳のある立派な人は、過ちがあると、態度をすぐに、はっきりと改める」という意味だそうです。豹の体の模様は、夏毛と冬毛とで色変わりする。「はっきりと改める」のを、それにたとえたのだそうです。なかなか間違っても改められないのが人間であります。逆に人のせいにして、相手に間違いを擦り付けてしまったりした事が何回もあったような気がします。

これと通じる言葉に「我、日に我が身を三省す」という言葉があります。一日に三回自分の身を振り返ってどうであったか考える事も、変化の激しい現代の社会に生きる社会人としてやらなければならない事ではないでしょうか。そしてもし間違っていたら、「君子豹変」即、改めて行く事が必要です。

ロータリークラブも奉仕活動、運動がもし地域のニーズにあっていなければ、すぐ考え直して方向転換をしていくことが必要だと思います。もうそろそろ今年の事業も、振り返る時期に来ているかもしれません。

(次頁へつづく)

何か御意見がありましたら遠慮なく、聞かせていただければ、これからの参考にさせて頂きたいと思ひます。

昨日2570地区の橋田ガバナー様から連絡があり、昨年度の会員増強に関してR1より表彰を当クラブが頂いたとの連絡があり、その後高山PG様からも同様の連絡がありました。本日湯本直前会長、小林直前幹事にガバナー事務所まで行って頂き表彰を受け取ってきていただきました。

この内容に関しては次月号のガバナー月信に載るそうなのでご覧になってください。昨年度の増強に改めて感謝申し上げます。有難うございました。

では以上で本日の挨拶にさせていただきます。

## 卓 話

### 白河ロータリークラブ

田代行孝 職業奉仕委員長



みなさんこんにちは、ただいまご紹介にあずかりました、白河ロータリークラブの田代です。

今朝、インターネットを見ていましたら、こんなニュースがありました。

世界の人口統計が載っていました。それによると今年7月現在で世界の人口は63億7760万人で昨年より大体7610万人増えている、しかし実際に増えているのは開発途上国であって先進国ではないのですね。

最も人口が多いのは中国で、13億1330万人。インド10億8120万人、日本は1億2780万人で2050年には89億人になる。しかし、日本は約1800万人減り、1億970万人になるとしている。日本の人口は間違いなく減るのです。反対に、昨日の地元新聞を見ていましたら、100歳以上の方がどのくらいおられるのかという事が載っておりました。正確に申しますと2万3038名おられ、この調査が始まった1963年から見るとその時は153人しかいなかった。なんと凄い長寿国でしょうか。

この100歳ちょっと手前の90歳以上の人についてアメリカのスタンフォード大学の調査で、「あなたの人生で何が一番悔やまれますか」と聞いたと

ころ、第1番に言った答えが「もっと自分はリスクを負えばよかった」、第2番目は「もっと勉強すればよかった」、第3番目は女性でしょうね、「もっと自分は子育て以外に何かをすればよかった」。

皆さん、これからの人生の先は長いですが（年金は先細りですけれども）この長い人生をどうやって生きるか、何か目的を持ってないと人生が楽しくないなど考えるんですよ。

みなさんココにおられる方は100歳を生きる可能性がある方ばかりですが、そういった意味でも何かを勉強するという事は（私も本業は税理士ですが）本業だけでは得られない色々な事を学ぶチャンスができると思います。

私事ですが、ある時チャンスが来て海外に勉強しに行くチャンスが与えられました。

平成9年に行なわれた税理士会の大きな勉強会へ福島県代表として出席、たまたま発表する機会がありまして、それが東京の方々のお目に留まりましてそれが縁で、お声を掛けて頂く事になり、今日お話を海外の研修の元になっております。

実はそういう風になる元々の切っ掛けは、私の先輩がその役職をやってきていたのですが、（そういう仕事はあまりやりたくない、という事で）たまたま私にスライドしてくれた。スライドしてくれた御蔭で人生のチャンスが広がったのです。福島県しか知らない、東北弁しか知らないそういうのが、いつの間にか日本全国の先生方と知り合いになる事ができました。だから私が勉強会に入れていただいている朝粥会という勉強会があって、その中国古典を指導する成田先生が言っていました、「時が経てばチャンスというのは向こうから遣って来る」だから、そういう思いで以って頑張って仕事していれば公平にチャンスがくるんだ。というような事をおっしゃっていましたが私も「あー成る程、人が譲ってくれた御蔭でチャンスが廻ってきた」ということがあり、今日の海外のお話しも、皆さんに役にたてるお話が出来ればと思っています。

私が海外に行くようになったのは今から5年くらい前からです。一番印象に残っているのは2001年に行きましたアメリカです。ワシントンとニューヨークに行きまして、その時に日本でも導入された連結納税制度というのを勉強しました。

実はこの時、アメリカに7月までいたのですが、その2ヶ月後に同時多発テロがおこりました。私たちが勉強したバードフィナンシャルセンターの隣にワールドトレードセンター(世界貿易センタータワービル)があるのです。これが2ヵ月後にテロの標的になってしまいました。

2ヶ月というタイムラグがあるけれども、人生というのは何処でどう転べば思わぬ出来事にぶつかる可能性がある、我々は運が良かったのかなと思います。

今でもあそこの事は私のデジカメにコンピュータの中に入っていますけれども、非常に印象深く残っています。

今年は、ヨーロッパに戻りまして、イギリスの方にチョット行って参りました。私も田舎者ですから、イギリスというのは…何処行っても皆イギリスかなと思ったんですけれども、違うんですよ。ご存知でしょうか。イギリスとはUnitedkingなんですって。

(次頁へつづく)

連合、ふつう何処が連合なのかと思うんですけども、いわゆる正式に申しますとGreat Britain及び北アイルランド連合国というんです。だからEngland・Scotland・Walesそこに北アイルランドが加わって今のUnited Kingdomなんですね。

ちょっと隣にアイルランド共和国が別にあるのですが、税金も違うし、国の方針も違うんですね。みんなひっくるめてイギリスだと思ってました。田舎者で何も知らなかった事が判りましたけれども、イギリス人というのはどちらかといいますと、宗教が皆違ひまして、やっぱりArnoldの国というのはカトリックですし、そして英国はProtestant、新教です。それから、ヘンリー8世の時代に作ったAmerican Churchという英国国教会、宗教も色々あるのです。何処がどういう教会か判らないとちょっと…その位複雑に混在している。

そう言ったイギリスで私が勉強してきた事は大きく分けて三つあります。

一つは、日本では導入されていない新しい制度でLFP(Limited Partnership)。

イギリスには色々な会社があるんですけども、Company所謂、日本で言う株式会社とハーバーシップという組合組織みたいなものです。日本も今、盛んに変わってきているので、勉強されている方はご存知でしょうけれども、日本の会社というのは株式会社があり、有限会社、どちらかというところと経営と資本が分離していますので、「おれは金を出すよ。社長はあなたがやりなさい。」という様に資本と経営が分離しています。これは重厚長大な方で工業投資的な飛躍的に拡大するには非常に良いのですが、反対にもっと個人的色彩でやる、所謂身内でやるという場合は無限責任社員になるけれども、合名会社。最近では来年以降に向けてもうちょっと中間的な会社を作る、合同会社、ようするに株式会社・有限会社と同じ様に、責任は有限だけ出資割合を個人的な組合みたいにしよう。

面白いのは、税金の取り方が違う。ようするに法人だけ法人税は課税しない。出資者である構成員である出資者が、所得税で精算する。利益分配システム分配した結果で各出資者が税金を払う。こういう仕組み。

だから法人だけ、法人税は払わないで、構成員である出資者が所得税で納める。こういう制度が、実は世界ではアメリカが一番最初にやってイギリスが2000年に導入した。

こういうのをちょっと聞いてきた。もう少しで商法が変わります。

やっててけっこう理解できないことがあるんですよ。やっぱり我々というのは、ついつい感情を押し当てて、何かこうやったら税金がごまかされてしまうんじゃないか。こんな事考えたら納税者はごまかしちゃんじゃないか。

私らが行ったIRSは内閣歳入庁の方々に聞いたんです。こんなことをやってオーダーマイスターが減るんじゃないのと聞いたんです。そうしましたら、あなか方は何を心配してるんだ、そんな事は間違いがでたら法律を作ればいい。なんでそういう事を考えるのかなと・・・イギリスはですね慣習法の国なんですね。慣習法というのは習慣が積み重なって、それが皆さんが当たり前になってくればそれを法律にする。という話。ということは、悪い事の繰り返す事

例が生まれたらその時にそれを法律にすれば良いわけで、今から日本みたいに色々考えて悪者探しするような条文作りは一切やっていない。慣習法の独特な考え方だと思ひまして生活習慣にもそういう影響がでている。

今ロンドンでは2003年2月渋滞税、ロンドンの町の中、半径21kの範囲内で、入る人は税金を払って入る。金額は5ポンド(日本円で1000円くらい)ですから、税金を取るということは、渋滞緩和ですね。ロンドンの町の中は非常に入り組んでいて、便利にデパートの前に車を付けたい方はTAXを払って、そして車を乗り付けてください。という、仕組みなんですね。

日本でも東京都知事さんが考えてたりしてはいたのではないかとおもったんですけど、導入はできなかった。でもロンドンではやっている。

ロンドン是非常に混雑しているんでマイカー乗り入れを規制関係があるんで、タクシーが非常にレベルが高いですね。

定員が5人乗りの大型のタクシーは、日本の二種免許をとるのも難しいですが、特にロンドンでは難しい。警察が許可を出すんですけども、ロンドンの街中の総ての地図が頭の中に叩き込まないと合格しない。ですからそういった意味では、運転手のレベルが高い。安心してタクシーに乗ってください。



ロンドンに二日三日滞在したんですが、今度は国が違うんですが、アイルランドへ行きました。アイルランドの人はダウリンといいます、ダブリンという町の中を、ずーと歩いて空港から来ますと、大きなビル工事があるんです。そこはですね、みなさん良く知っていると思いますが、なんでも世界1のギネス社がありまして、ギネスビールというのがありまして、ゴルフ焼けてそのくらい黒いビールが出て来る訳ですが、これは美味しいビールですね。

アイルランド人は何かというと、パブでフィッシュ and チップスといってお魚を揚げたものと、チップスといってもフライドポテトの様なものを向こうではチップスと言います。それをつまみながら、ビールを豪快に飲んでいるんですね。あんまり冷やさないですね。

気候的にイングランドの偏はメキシコ暖流があって、冬でもあまり雪が降らない。天気が非常に変わり易く、一日のうちで、天気予報を見てると面白いんですよ。イギリスのテレビの天気予報を見てると晴れのところに曇りがあって雨が重なっている。

ようするに一日に四季があって、あつという間に雨が降ったと思ったら、たちどころに曇りになって晴れてくる。また直ぐに雨が降るといった、ああいう国にいると確かにねコートはいいものが必要ですね、バーバリーのコートだとか、だいたい向こうの人は傘を持たないですね。

(次頁へつづく)

日本人であれば雨が降れば、さーと傘を差しますね。向こうの人は悠然たるものでコートの手を立ながら雨に濡れながらゆっくり歩いて行く。だからいいコートを持っているんだと、おもいましたけれども。

さて、話を元に戻しまして、アイルランドの法人税率はどのくらいとおもいますか。

実はアイルランドの現在の法人税率は12.5%。これは実質的な事業形態があれば、ちゃんと人をやとって会社経営をしていて運営していれば、12.5%。ただどこかの子会社みたいにペーパーカンパニーでやっているとしたら25%、人を雇わない。

アイルランドでは若いひとの比率が多い。世界中から企業に来てもらって働き手を求めている。だから人を雇っている法人であれば、12.5%にしましょう。こんな税率を作ったら、国際間競争もおかしくなるし、という問題もEUからでている。でもアイルランドは独自の路線でやっている。

例えば日本の財務省だったら日本の法人税率は今、低い場合が22、高い場合が30くらい。

30%の税率を12.5%に下げるといったら、財務省の役人だったら、財源はどうするんだと大きな声で怒られて言われそうです。ところが、われわれがアイルランドの財務省の役人から聞いた言葉は我々は2003年迄の6年間に元は36%、それを毎年4%づつ下げていった。

そして今12.5%になったんだけど、税金はどうかといたら、1997年の法人税収は21億ユーロ（2,700億円）で、2003年の年には51億ユーロ（6,600億円）で法人税収は増えた。どういうことかという税率は下げたけれども増収となった。理由はアイルランドに税率が安いから会社が移動したんですね。だからこの辺の考え方はですね、ちょっと参考に日本もしても良い。下げたら財源が無くなる。自然投資の上がる方法を日本は考えてもいいんじゃないかな。

アイルランドはもうちょっと面白い方法をとっている。皆さんの中でもタバコをすってる方がいると思いますが、アイルランドでは今年の4月から禁煙法が施行された。Public的なところは全部だめになった。ある大臣がタバコを吸ったら免職になった。そういう事実がありました。

罰金が、380,000円くらい、すごい厳しい罰則が今年から施行された。理由は何かというところ、やっぱりですねこれが面白い。そこで働くスタッフの健康を守るため、で施行された。

私も色々な国に行くチャンスがあるんですが、だいたい建物の外に吸殻入れがあって、そこで皆さん愛煙家の方は吸っていただいて、そして建物の中に入る。出るまでは吸わない。

こういうことは習慣的にやっている。向こうの人は当たり前感覚でやっている。

最後に三番目の国へ行った時の話をします。こんどはスコットランドへ行きました。

スコットランドの人はEdinburghというところに・皆さんイギリスへ行かれた方がおられると思いますが、Edinburghまで行かれた方はおられますか。あまり行かないと思います。

大体観光ですとロンドンだけで帰ってゆく。是非この次にイギリスへ行くチャンスがある方、もう少し日数的に時間を取ってもいい方は是非ここへ行っ

てください。Edinburghとっても綺麗な場所です。

これは世界文化遺産の町、歴史は6世紀からあって、建物が残っているのは17・18世紀の建物が残っています。大変美しい町ですね。

この町のお寺の一角の中に国富論で有名なアダムスミスの墓がある。有名な方ですのでちょっと見えてみたいと思いました。行ってまいりました。

スコットランドはですね、こちらへ来る今車の中で話題になっている合併話がでていた。この辺でも合併の話はありますか、ありますか。スコットランドはUnitedkingdomの一角なんですけれども、スコットランド自体は独立している。仕組み的に国会持っているし、大臣もいる。イギリスのロンドンに行けばちゃんと大臣もいる。だけどスコットランドにもいる。そしてそこで、自分たちで政治を行なう、色んな決め事もできる。

面白いのは大体日本もそうですけれども国が税金を集めたら地方へ配分しますね。補助金だしますよね。けどこうゆう補助金はこうゆう形で使いなさい。いろんな縛りがあります。あちらの国は、実はですねスコットランドに7割位補助金を出している。財源を一切拘束しません。目的を問わない。もちろんあんまり変なものにお金を使ったら言われますよ。基本的に用途目的を問わない。その行政府の下に更に小さな30位の自治体がある。市町村みたいなもの。ここへも補助金を出しますが、ここにも縛りがないんです。自由にその中でやりなさい。

このことを民報新聞に書いたんです。そしたら一番見てくれて喜んでくれたのは、実は白河市の役人・役所の人でした。こうあってほしい。如何に日本の財政は縛りが多いかと判りますよね。

スコットランドで凄く印象に残ったのはですね、教育が凄い。スコットランド行政府 大体人材育成に国が政府として500億円位をこれから社会に出る人の為に投資する。小学生の国語と算数に力を入れて行政自らがやっている。

世界のプロムニーズの9%はスコットランドがノウハウを持っている。

みんな大学へ行く、そして有能な人材を作る。そういう仕組みをあちらではやっている。

スコットランドの人口は500万人くらいですから北海道と同じくらい。そういう中で、小さい国がどうやったら生き延びられるかということ、やっぱり力を入れるのは教育だと…人を育てなければ小さい国は大きくなれない。発展しないという考えなんです。

Edinburghには有名なゴルフ場があります。ゴルフ発祥の地です。

あそこは今でも世界中からゴルファーの方々と会うことができる。私たちの仲間がやった先生がいましたが、非常に難しい。玉がぼーんととんでしまって風が強いので失速してしまってラフにはいってしまう。ラフに入ると芝が厚くとげがあり、ボールも拾えない。だから非常にあそこのゴルフ場は腕が確かな人でもなかなかいい成績を上げられない。是非一度はイギリスへ行かれてプレーしていただきたい。

最後に私らは視察に行く役人の方と向こうでお会いするんですけども、その中に印象に残った言葉があるんですね。そういうのをご紹介したいと思います。

(次頁へつづく)

アイルランドの財務省では、年齢は55～56歳くらい法人税担当の方でしたけれども、ニコニコ笑いながら、アイルランドではいかなる状況にあらうとも教育予算は絶対に削減しない。

日本は2004年、骨太方針義務教育費補助金廃止論がでていいる。ずいぶん違うなと思いました。

もう一つ、メルギブソンがやっていたブレイブハートという映画がありましたね、あれは英国からスコットランドが独立しようという戦争映画でしたね。ああいう歴史を踏まえて1997年に、今のスコットランドは独立したんです。国としては一つだけども自治体として独立した。その革命運動をしたリーダーの言葉なんですけれども「地方分権というのは、中央が唱える物ではない、自分たちの気持ちから生まれるものである」とこう言ったわけですよ。

だから今、私たちの福島県でもインターネットで見ると地方分権の生命国が決めてくれなくては何も出来ない。あれでいいのかな。地方は地方で考えてやっていかなかったら、ただ合併しても同じではないか。

最後に私たちの勉強の仕方についてご紹介して終わりにしたいと思います。

あなた方は税理士でしょ。日本に帰れば、お客さんが待っているでしょ。仕事があるよね、だったら日本に帰ってレポートを書くなんてのは出来ないでしょ。われわれの仕度は行った先で仕上げるんだよ。だからレポートはピンチでした。

多少眠くても1日目はつらくとも3日目には慣れてくる。

「睡眠は必要におおじて、伸縮自在たるもの」

一気にやらなかったら、仕事のチャンスは逃れてしまう。機関車みたいにダダとやらないとビジネスチャンスは逃げていってしまう。私も8時間休んでまた明日頑張ろうでは、そんなにビジネスチャンスは待っていない。

チャンスがあったらダダとやらないとチャンスは何時またやってくるか判らない。だから、現地で作ってくる。

そんな形で毎年行って今年で5年目を迎えます。来年はオランダの方にひよっとしたら行く事になるかもしれません。

また、チャンスがあればお時間を戴いてお話できればと思います。

今日は、色々聞いていただいてありがとうございました。



## ニコニコ報告

### 白河ロータリークラブ

☆草野会長 今日白河ロータリークラブの幹事、委員長さんに御世話になりながら来ました。よろしくお願いいたします。

☆新妻幹事 本日はお世話になります。

☆金子会員 元気な皆様方のパワーを頂にまいりました。

☆田代会員 本日は卓話をさせていただき有難うございます。

☆黒淵会長 白河ロータリークラブの皆様、本日は遠い所有難うございます。卓話、よろしくお願いいたします。

本日昨年度の会員増強についてR1より表彰状を頂きました。湯本直前会長、小林直前幹事、有難うございました。

☆島崎幹事 白河ロータリークラブの皆様ようこそおいでいただきました。

田代先生卓話、有難うございます。

☆清水義夫会員 誕生祝有難うございます。

☆石渡会員 5人目の孫が今週誕生する予定です。無事生まれることを祈ります。

☆小林会員 9月14日、行田商工会議所のゴルフコンペが有りまして、小山博先輩が誕生祝にゴルフ場からワインを頂いたのを、私達のパーティでご馳走になりました。大変おいしかったです。

白河ロータリークラブの皆さん、本日は有難うございます。

☆福島会員 白河ロータリークラブの皆さんようこそ。本日の卓話、田代様有難うございます。

9月25日、元朝日新聞ヨーロッパ総局長青木利夫先生の講演会が有ります。ぜひおいで下さい。

☆古沢勇治会員 一昨日境野会員と桜ロータリークラブにメーキャップにまいりました。大変良くしていただきました。9月30日には逆に当クラブの夜間例会に6～7名のメーキャップがあるそうです。よろしく伝えて下さいとの事でした。

☆樋会員 10月14日健康診断の例会です。出席よろしくお願いいたします。

☆白河ロータリークラブの皆様ようこそおいでくださいました。

佐藤会員、石塚会員、長島隆行会員、永島会員、山田会員、清水義夫会員、小川会員、武笠会員、小山会員、湯本会員、稲垣会員、古橋会員、鈴木委員、山本憲作会員、阿部会員、持田会員、清水治雄会員、小菅委員、岡田委員、小沢会員、大野委員、田山会員、中島会員、廣川委員

合計¥55000

# 幹事報告 島崎政敏 幹事

- ① 行田市埼玉の山本正幸さんが、新入会員として推薦されておりますことをお知らせいたします。先週の理事会を通りまして、ロータリー情報委員会の説明も受けております。お仕事は奈良漬の山本食品工業という会社の経営者で、職業分類は食品の漬物製造、推薦者は大野会員と小山会員です。今日から7日以内に異議申し立てのない場合、入会金の払込によって会員に選ばれることになります。
- ② 市内佐間、産業道路傍にロータリーのマーク入りの交通安全看板が立っておりましたが、理事会におきまして福島理事より、錆びついて見苦しく放置しておいては危険でもあるとの意見が出され、撤去することが決議されました。

その後、関係者の承諾も得て昨日、小林ビルトさんの手によりきれいに撤去作業が完了しましたので報告いたします。

- ③ 会長ノミニー選考委員会が9月24日にひらかれます。メンバーは黒淵、島崎、内山、山本憲作、永島健雄、小山の6名の委員です。
- ④ 新事務局員の吉田さんが、事務所内の古い書類の整理や今年度の文書の分類保管をすすめております。ぜひ事務所にお立ち寄りください。
- ⑤ 来週は例会はありません。次回の例会は9月30日（木）夜間例会で、会場はゆもとホテルさんです。

## 出席報告

正会員数	73名	●	メークアップ	5名
本日の出席者	40名	●	出席率	61.64%

